

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400112		
法人名	社会福祉法人 多伎の郷		
事業所名	グループホーム はなんばの里(ひびき)		
所在地	島根県出雲市多伎町口田儀750		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成26年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人で特別養護老人ホーム、老人保健施設など様々な事業所を運営しており、連携をしながら支援している。地元の行事への参加、住人・ボランティアの来訪も多く、地域との連携も強化している。利用者の笑顔とその人らしさを大切にし、残存能力を引き出せるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田儀川とJR山陰線が交差し、日本海が見える国道沿いの風光明媚な地に開設7年目を迎えるホームはあり、「なだ風に裸木踊る多岐の郷」と歌を詠んだ利用者さんは、ホームでのくらしについて、「毎日楽しく過ごしていますよ。」と笑顔で話された。新しい洋服を買いに大型スーパーまで行ったり、一対一で風船パレーや散歩したりなど個別に対応している。重度化した利用者さんには、医療福祉の協力で看取りもする。防災訓練は、海岸に近いことから、出雲市沖で地震発生し20分後に津波が到達することを想定した訓練を2回行う。社会福祉法人の理念である地域に密着した福祉にホームも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や家族の方々との交流を大切にし関わりや触れ合いの時間を大切にしている。利用者様の残存能力を活用し自信を持って笑顔で生活していただける様に心がけている。	ホームの理念「家庭により近い・・・その人らしさ・・・安心・・・力の発揮・・・」は、目に付くようにホームの随所に掲げられており、ホーム長、職員は利用者さんの笑顔を理念の実践の証ととらえ、明るいホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋の田儀地区の祭りでは毎年花折りから参加し当日は完成した花馬が事業所を回って下さり利用者様も見学させて貰っている。保育園の行事や地域のとんどさん等にも参加させて貰っている。	法人母体が、地域に根を張り、住民の信頼を得ていることから、地域との付き合いは良好であり、行事参加だけではなく、野菜の差し入れや友愛訪問など、日常的に、積極的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや地域の方々を交えて勉強会を行い認知症に関する理解を深めていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。意見や要望は詰所会議で報告し改善策を考え職員の意識の統一に繋げている。	会議では、家族代表からの意見も活発に出されており、「職員同士いいところを見つけて紙に書いて渡す」などの取り組みについても賛同して、ホームの取り組みに協力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適時に市担当部署を訪問し、困ったことなど協議、検討し、その都度問題点は解決するなどしている。サービスの向上につながるように取り組んでいる。	市の担当職員とは顔の見える関係を築いており、最近では、認知症加算のことなど、運営のことも相談している。会議には毎回出席いただき、ホームの取り組みを知っていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止、身体拘束廃止に関する事業所内研修を実施している。毎月のユニット会議で具体的な行為について話し合っている。玄関の施錠については利用者の安全を確保した上で解放に努めている。	コミュニケーションの中での言葉使いや人間関係のあり方が、利用者の尊厳を傷つけたり、自由を奪うことがないように、新人職員には研修を行い、また、ベテラン職員も常に意識できるようスーパービジョンを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止、身体拘束廃止に関する事業所内研修を行っている。毎月のユニット会議で1ヶ月の振り返りを行っている。自分自身の行動や見かけた行為等虐待のい繋がりそうな事を話し合い、気持ちを表す事でストレスの軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修は事業所内では行っている。今後も外部の研修に参加し、事業所内で研修を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって説明をしている。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制等、実際について詳しく話し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には家庭通信や面会時、家族会等で利用者様の状況をお知らせ出来る様にし、何でも言って貰える様な雰囲気作りを心掛けている。いただいた意見、要望は職員で話し合い、改善できるよう努めている。	利用者さんが、病気を発症されたため、治療方針について、家族としっかり話し合い、本人・家族・医師・ホームの共通認識で、協力しながらケアするなど、家族の本人への思いを大切に受け止めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会、詰所会議などで意見を聞くようにしている。管理者は職員の意見や要望を聞くよう心掛けている。	職員は、意見を言いやすい雰囲気であり、出された意見は採用して、まずやってみて、評価し合い、ケアや運営を改善、向上に向けて取り組んでいる。職員一人一人の個性や力量が活かされることで利用者さんの豊かな暮らしを演出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員登用制度、資格取得の支援や取得後の昇給等により向上心を持って働けるよう努めている。代表者は日々、個々の職員の話をよく聞き状況を把握すると共に、産業医として健康診断に基づいての指導、アドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧し、1人1人が研修を受講できるようにしている。研修報告書を全職員が目を通し、詰所会議での勉強会として職員のスキルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会があり、研修などに参加し、質の向上に努めている。グループホーム間での研修、交流をもつことでサービス向上を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人のことを知る為に寄り添い、日々の関わりの中から本人にとって安心した生活を大切にし、馴染みの関係になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の来苑時には利用者の近況を正確に伝え、ご家族の思いも確認、大切に信頼関係を築けるように努めている。その時に得た情報は記録やユニット会議で共有できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所することが本当に必要かどうかを本人、家族、必要に応じては今まで関わってきた在宅のケアマネージャーや施設・病院の相談員等と検討し、その方にとって一番良い方法が取れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存能力を活かし、得意としている事を把握し教えていただける関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の心身の状況や変化を伝え、本人を支えていくための協力関係を築けるようにしている。また、遠方の家族から荷物などが届いた時は本人も電話で話したりし、声を聞いてもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアで来苑された方と、活動後に茶話会を開き楽しく過ごされている。外出先で知り合いの方に出会った時はゆっくりと話をし、支えあえるようにしている。外出が困難な利用者には家族様と共に職員も付き添いで外出などを検討している。	入居の際には、自宅訪問をし、利用者さんの生活エリアを把握している。ホームからいつでも自宅周辺に行ったり、家での法事など家族が集う場にも職員がケアのために同行して付き添うなど今までの関係が保たれるよう援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者さんとの関わりや、趣味の時間を大切にする支援を心がけている。また、なかなか輪に入っていけない方には、職員が間に入って一緒に関わることを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の希望がないため実施していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の言葉や表情から声掛けをし、寄り添い、思いを確認するようにしている。また、家族からの情報を参考にしている。	看護学生実習を受け入れているが、学生が行った「聞き書き」の中に、農業をしていた利用者さんが若い頃、映画が好きだったとあり、図書館に行き、映画に関する写真集を借りた。利用者さんと共に生きがいのある暮らしを作っていくホームを目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活スタイルや本人や家族から情報を得て日課としていたことや、得意なことを継続して行ってもらえるよう個別支援が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの時間も大切に、居室でゆっくり過ごす時間も尊重している。昨夜の睡眠状態などの情報も申し送り、日中の過ごし方も日々対応している。また、個々の有する力に応じた役割や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や要望を聞いたり、表情からの思いを大切に、毎月のユニット会議で話し合い、対応や解決策を検討している。	認知症の方は、言葉によるコミュニケーションが難しい事が多い。家族からの話には、その方の生活スタイルや思いがくみ取れる。職員はそれらや、日々のホームでの様子から、言葉以外の情報も得て、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートやカンファレンスノートを作成し、職員間の情報の共有ができるようにし、統一したケアができるように努めている。感じた問題点についても共有することで解決策を導きだすことができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の状況に応じて通院・往診など必要な支援には柔軟に対応している。同法人内の他の事業所との連携も図られており、多機能を活かした支援がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容の方が送迎したり訪問して下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の状況に応じて通院・往診など必要な支援には柔軟に対応している。同法人内の他の事業所との連携も図られており、多機能を活かした支援がなされている。	利用者さんは、希望する病院を受診することが出来る。家族も健康面や医療面、安全面について安心している。家族との健康面についての連絡も日常的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人、家族等の状況に応じて通院・往診など必要な支援には柔軟に対応している。同法人内の他の事業所との連携も図られており、多機能を活かした支援がなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人や家族が希望するかかりつけ医を基本にしており、体調の急変時には往診依頼もなされている。かかりつけ医の利用を基本とした適切な医療が受けられるような支援がなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」を作成し、利用者、家族に説明し同意を得ているおり、職員体制も整えられ、複数回の終末期の対応、看取りがなされている。	ホームが終の棲家となれるような取り組みが行われている。病気や怪我など、予測はつきにくいですが、利用者毎の状況に応じて、柔軟な対応が可能である。法人母体の協力体制が大きな支えになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署の協力を得て、自衛消防訓練を利用者と共に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、自衛消防訓練(総合訓練)を行った。今後も定期的に運営推進会議委員にも訓練に参加してもらいたい。防災訓練のマニュアル等は作成したが、実際の訓練はしていない。	防災訓練は、海岸に近いことから、出雲市沖で地震発生し20分後に津波が到達することを想定した訓練を2回行っている。法人、地域住民の協力の下で、災害時の対策に熱心に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応や言葉遣いなどきをつけるように心がけているが、命令口調になることも多くみられる。今後は、職員同士注意しつつ言葉遣いを考えていきたい。	個室ドアはノックや声をかけて入室する、排泄の声かけは、周りにそれと悟られることのないよう気をつけるなど、基本的なことから、楽しい会話や、レクリエーション時の話し方でも、尊厳を損なうことのないように丁寧な言葉遣いに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、表情を読みとったり・些細な事でも本人が決める場面を作る様にしているがまだ不十分である。今後も個々に合わせて自己決定できるような声掛けをしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりとゆっくり話すことで、本人がどのように過ごしたいかを聞いている。そして、希望に添える様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりを大切にし、その人らしさを引き出せるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回、食事作りを行っている。献立は利用者と一緒に話し合い、季節に応じた献立になるように努めている。誕生月には、その方の食べたいものを一緒に作っている。	利用者さんは全員が参加して巻き寿司作りをしている。体の不自由な方も職員が手を添えるなど、援助している。出来上がった昼食を皆でいただいて、お腹いっぱいになるまで、笑顔でゆっくりと会食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が体調、体重などを見ながら調節している。水分摂取は利用者に飲みたいものを聞きながら自由に飲めるようにしている。1500～2000ccを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、介助が必要な方には介助をし、口腔内を清潔に保てるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのリズムに合わせて、排泄への声掛けをしている。排便チェック表を活用し、排泄パターンを知ることで、トイレでの排泄ができるよう支援している。	入居後、2週間から1ヶ月程度で、排泄のパターンは把握できるという。その後は、トイレでの排泄を誘導している。状態によってはおむつやポータブルトイレを使用することもある。ホームのトイレは清潔で、排泄物の匂いはしない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲食物を摂ってもらい、水分量が1500～2000ccになるよう心掛けている。体操・レクリエーション等を行い、体をうごかしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく、本人の希望時間帯に入浴できるように支援している。ゆず風呂など季節を感じられるようにしている。	入浴は夕方行われており、浴後寝間着に着替える方もいる。動作の能力に応じて職員は介助しており、一人一人入るなど、プライバシーも護られている。楽しいお風呂になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況を把握しながら、日中はなるべく活動してもらい、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、確認できるようになっている。服薬変更の際には状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとり、姿と気持ちシートを記入することでその方を知り、役割・楽しみごと、気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、散歩・ドライブ・買い物などの支援を行っている。併設するデイサービスの行事にも参加している。	自然豊かなホーム周辺の散歩、食材や日用品、時には好みの洋服や趣味の品物などの買い物、観光やドライブなど、利用者さんが楽しめるように日常的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には自己管理をしてもらい、可能でない方にも、個人の財布を準備し、買い物等の際には自分で支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、介助・見守りなどをしながら電話してもらい、手紙等自由にやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた空間づくりを心掛けている。季節の花や飾り物などを飾っている。居心地の良いテーブルの配置など工夫している。	ホーム全体に木をふんだんに使用した和洋折衷の建築であり、落ち着いた雰囲気がある。明るく清潔なホールの壁や棚には、季節の花や、利用者さんが楽しんで取り組んだ作品が飾られており、我が家、我がホームのぬくもりがある。テラスに続く広大な芝生の庭でひなたぼっこやお茶、軽運動をする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、ソファーや椅子、テーブルなどを配置して工夫している。居心地良く、落ち着いた居室を目指している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏さんなどを持ってきてもらい、居心地良く過ごしてもらえるように工夫している。	床も壁にも木が使われ、落ち着いた室内は、プライベートにくつろぎ、自分の時間を楽しめよう、タンスや机・椅子に小物や壁飾りがされている。ひとりひとりの個性を尊重したしつらえになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じて環境整備を行い、安全で自立した生活が送れるように対応している。		